

二上山だより



上ウグイスカグラ

4月17日雌岳山頂のサクラは満開、その直下にあるあずまや傍のウワミズザクラはブラシ状のつぼみの塊をつけている。山路を辿る足元にはムラサキケマンやキランソウが鮮やかな紫の花を見せ、ホタルカズラが深いブルーの花弁を開いている。一斉につぼみをほだきだしたチゴユリの花は白。そして草木の芽吹き。二上山はすっかり春の色どり。

ウグイスカグラ（鶯神楽）はスイカズラ科スイカズラ属。この花の蜜を吸う時、鶯が舞うような仕種を見せるという。一度でいいから見てみたいものだ。6月に熟れる赤い実は美味しいらしい。

ムラサキケマン（紫華鬘）はケシ科キケマン属。華鬘は仏殿の欄間を飾る仏具。同科同属のミヤマキケマンとともに平地の畦道などでも咲いている。中国では腹痛の薬に使うと言う。

チゴユリ（稚児百合）はユリ科チゴユリ属。今の時期二上山で最も多い花。小さくて可愛いからこの名に。花言葉は「恥ずかしがりや」。成る程、納得。多年草で、種子でも地下茎でも繁殖するらしい。

ホタルカズラ（蛍蔓）ムラサキ科イヌムラサキ属。魅惑的なブルーの花。その色を蛍の光にたとえての命名。「今年も無事だったか」とつぶやきながら、再会を楽しむ。残念なことに二上山での自生地が極端に数を減らしている。自然淘汰でならともかく、人間の盗掘によるのなら許せない。「写真泥棒と花盗人は泥棒のうちに入らない」などと言っては居られない。植物相が豊かで、新緑、紅葉、そして四季折々の花と鳥の囀り、身近に自然が楽しめる二上山、この山とその自然を大切にしたい。

左ホタルカズラ



上ムラサキケマン

上チゴユリ

あなたも クリーンハイク（清掃登山）に 5月27日高見山

今年も、全国勤労者山岳連盟の呼びかけによるクリーンハイクが行われる。私が所属するオオヤマレンゲ山の会が担当するのは高見山。実施日は5月27日（日）。桜井駅北口に8:00集合し、登山口までマイクロバスで往復。バス代の負担あり。

通常登山の服装、手袋、ゴミ入れビニール袋など持参を。参加希望の方は5月20日

までに松尾(0745-52-6414)か、上野(0742-34-3150)まで御連絡を。

野山の不思議 ⑳ 雪国の雪割草

(この項は健生会友の会の機関紙「ふれあい広場」に載せてもらった文を転載、その際少し加筆しています)

4月2日友の会山歩きクラブで新潟市内の角田山に登りました。山頂近くは分厚い雪が残っていましたが、山腹はオオミスミソウやカタクリ、キクザキイチリンソウ、ショウジョウバカマなどの小さな美しい花々が斜面を覆うばかりに咲いていました。奈良の二上山では祐泉寺近くのショウジョウバカマがやっと蕾を出した頃ですから、北陸で春の花が満開なのは、それだけでも不思議な事でした。



しかし、もっと不思議なのはこうした早春の花たちの生活です。豪雪地帯で春浅い頃、いっせいに花を開いて春を告げる小さな植物たち、そして夏にはそのほとんどが地上から姿を消すのです。

この不思議な植物たちは雪割草とか春植物とかよばれています。英語ではスプリング・エフェメラル(春のはかないもの→春の妖精)と言うそうです。

ブナ林など広葉落葉樹林下、厚い雪の下で春を待つ準備を進め、雪解けと同時に芽を出し、花を咲かせます。そして木々の芽生えが始まらないうちに、葉を広げて盛んに光合成を行ない、種子を実らせまた球根などに栄養を蓄え、他の植物たちが葉を茂らせる頃、来春までの眠りに入るのです。

この生活サイクルは温帯の落葉広葉樹林帯に適したもので、こうして生きるこれらの植物たちといつまでも共存・共生していきたいですね。(写真の白いカタクリとオオミスミソウは新潟で)



健生会友の会の **第25回健康まつり** に御参加下さい

5月20日(日) 朝10時～午後3時 JR 高田駅東側広場と奈良県産業会館で。

産業会館の大ホールでは、歌、踊り、バンド演奏など。展示ホールでは体力測定などが。広場には、たくさんの模擬店、バザーのテントが並びます。またこどもの広場ではエアートランポリン、トンカチコーナー、ヨーヨー釣りなどが。

● 山歩きクラブの展示 二上山に咲く花・写真展 即売も。

例会登山の記録写真の展示も。

● 登山用具中古品バザー 国民救援会のテントで。ぜひ覗いてみてください。

健康まつりの参加前売り券(300円)あります。

以上 148 号